

社会福祉法人 上溝緑寿会
令和3年度事業報告

～目次～

chap1	法人全体の事業報告	
	1.令和3年度の法人全体の事業概況	… 1
	2.各事業の令和3年度の概況	… 2
	3.令和3年度重点項目等の取り組み	… 4
chap2	ずっと我が家 上溝本町 [上溝 6-2-22]	
	1. ショートステイ	… 14
	2. デイサービス	… 16
	3. ホームヘルプサービス	… 18
chap3	秋桜 [上溝 3172-1]	
	1. グループホーム秋桜	… 20
	2. デイサービス秋桜	… 22
chap4	星が丘エリア	
	1. 星が丘デイサービスセンター[星が丘 4-9-14]	… 24
	2. 星が丘高齢者支援センター[星が丘 3-6-21]	… 26
chap5	コスモスセンター [上溝 5423-5]	
	1. 上溝高齢者支援センター[上溝 7-16-13]	… 28
	2. 居宅介護支援事業	… 30
	3. コスモスホーム	… 32
	4. コスモスハウス	… 34
	5. 栄養調理部門	… 36
	6. 総務事務部門	… 37

令和4(2022)年3月31日

chap1 法人全体の事業報告

1. 令和3年度の法人全体の事業概況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の広がりによる影響が、令和2年度以上に大きなものとなりました。

事業面では、通所介護(デイサービス)3事業[すつと我が家上溝本町・認知デイ秋桜・星が丘デイサービスセンター]と訪問介護(ホームヘルパーサービス)の稼働率の低下による収入減が大きくなりました。新型コロナウイルス流行による利用控えに加え、感染者の発生による休止の影響が特に、認知デイ秋桜と星が丘デイサービスでは大きくなりました。

また、昨年度に引き続き、人材不足を派遣職員で補わざるを得なかったため、法人全体で収益が悪化しました。

この中で、感染症対応により採用活動が制約される中、実習生への働きかけ強化により、学卒見込みの学生2名を採用内定することができました。

法人全体の収益の概況は、令和3年度の事業収入は、年間を通じて、稼働率の低下があり、特に通所介護(デイサービス事業)で令和2年度以上に顕著となりました。

介護保険事業では令和2年度の892,766千円から872,839千円と、19,927千円(2.2%)の減収となりました。

サービス活動支出は、新型コロナ感染症等による人員減への対応で、派遣職員増があったため、人件費が増加(+7,373千円)しました。事業費及び事務費の減(△7,267千円)はありましたが、支出額全体としては微増(+1,571千円)でした。

経常収支は、法人全体では令和2年度の△37,218千円から△43,150千円(5,933千円減)となりました。

令和4年度は、引き続き、人件費を中心とした固定費削減に取り組めます。また、デイ等の稼働率は2月を底として上向いてきておりますので、物価動向に合わせた適切な料金設定など収入についてもきめ細かな見直しを実施し、まずは収支均衡を目指してまいります。

2. 各事業の令和3年度の概況（詳細は、各事業の事業報告参照）

(1) ずっと我が家上溝本町

<p>ショートステイ (短期入所) 定員：40名</p>	<p>年間を通じ、新型コロナウイルス感染症の影響があり、特に11月は稼働率が80%台に低下しましたが、新規利用者を年間を通じ獲得することにより、稼働率は93.75%と令和2年度の92.92%より微増となり、介護保険事業収益は前年度の199,551千円から203,401千円と前年比+3,850千円(1.9%増)となりました。</p> <p>人件費率は、令和2年度の87%から、81%に下がりましたが、派遣職員費が人件費全体の約34%(前年度比4,979円増)を占め、人材直営化が進みませんでした。</p>
<p>デイサービス (通所介護) 定員：40名</p>	<p>年間を通じた平均利用人数は、24.2人(令和2年度24.6人)と新型コロナウイルス感染症の影響で伸び悩みましたが、2月の21.8人台を底に、回復してきています(令和4年度4月・5月は25人台)。中重度比(目標35%以上)は、43.6%と令和2年度の40.6%より増加しました。</p>
<p>ホームヘルプ (訪問介護)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響や正職員ヘルパーの一時的な病欠等により、サービス事業量は減りましたが3月より職員が復帰し、事業量についても復活しつつあります。また、報酬単価の高い、身体介護、身体・生活介護のサービスの割合は約75%に増え(令和2年度65%…目標60%)ました。年度全体としては事業量の低下が影響し、収益は赤字となりました。</p>

(2) 秋桜拠点

<p>グループホーム秋桜(認知症対応型共同生活介護)定員：18人</p>	<p>平均稼働率は97.4%と令和2年度(98.2%)と同じく、ほぼ100%の稼働でした。入居希望者は16名と堅調です。</p> <p>人員確保対応で派遣職員費用が増加したため、人件費支出は増加(1,380千円)しています。</p>
--------------------------------------	--

<p>デイ秋桜 (認知症対応型通所 介護) 定員: 12 人</p>	<p>令和3年11月、令和4年1月、3月が、新型コロナウイルス感染等により、平均利用率は6人台と低下しました。年間では7.7人と令和2年度(8.3人)より、0.6人低下しました。</p>
--	---

(3) 星が丘エリア

<p>星が丘デイサービス センター (通所介護) 定員: 25 人</p>	<p>平均利用人数は年間を通じ16名～17名に推移しました。コロナウイルス感染症による利用控え等に加え、複数回利用の中重度の方の利用減などがあり、平均利用人数は、令和2年度の18.2人に及ばず、16.0人となりました。</p> <p>3月以降の平均利用者数は、4月15.7人、5月見込み17人台と増加しており、引き続き、居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)への積極的なPRを行います。</p>
<p>星が丘地域包括支援センター</p>	<p>コロナ感染症の影響による事業中止等があり、その中で下半期より感染状況を把握しつつ徐々に介護予防事業等を再開してまいりました。相談件数は非常に増えており、経験の浅い職員の育成を意識しつつ、チームで対応しました。</p>

(4) コスモスセンターと上溝地域包括支援センター

<p>上溝地域包括支援 センター</p>	<p>コロナ感染症が広がる中で、事業の大半が中止される中、個別相談件数はかなり増えました。新採用の職員の人材育成を行いながら、事務職員も新たに採用し、窓口対応の充実をはかりました。</p>
<p>居宅介護支援事業 (ケアプラン作成)</p>	<p>定年退職等の欠員に対応する人材確保に時間がかかったため、担当ケース数は減少せざるを得ませんでした。</p> <p>4月に新規採用1名があるため、4月には令和3年度当初の実績に近づく見込みです。</p>

<p>コスモスホーム (特養) 定員:特養 54 人・併 設ショート 16 人</p>	<p>2～3 月に新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生したため、3 月の稼働率は 80%台に低下しましたが、その他の期間は短期入所の空床利用を進めて結果、年間稼働率は 99.5%と 100%に近い稼働率を維持することができました。</p> <p>課題は収支構造の改善、設備の更新、人件費をはじめとする固定費を削減するとともに、食費等の見直しを進めていくことです。</p>
<p>コスモスハウス (ケアハウス) 定員:32 名</p>	<p>令和 2 年度と同様に、二人部屋に一人で入居中の方がいるため、年間を通じ、ご利用者の入れ替えはありましたが、在籍は 31.4 名と実質満室の状態が続いています。</p> <p>ご利用者に感染対策へのご協力をお願いを続けました。新型コロナウイルス感染症の罹患は、単発的に入居者 2 名の発生がありましたが、その他の利用者や職員の感染はありませんでした。</p>

3. 令和3年度の重点項目等の取組み

I. 令和3年度事業計画の重点項目の取組み状況

(1)各セクションが「仕事の改革(工夫)」に自律的に取り組む

①仕事の見直し

「仕事の見直し」は各セクションが自律的に取り組みました。「マニュアルの基本となる書式の見直し」(我が家ショート)、「プログラム確認シートの見直し」(我が家デイ)、「訪問介護の手引きの作成」(我が家ヘルパー)、「シフト体制の見直し」(コスモスホーム)などを年度を通じて取り組みました。

②各事業単位の経営管理の取組み

令和2年度の事業と決算に内容について、事業規模が大きく赤字決算となった「ずっと我が家ショートステイ事業」と「コスモスホーム事業」について、理事長と、拠点長・ホーム長との意見交換と分析を行いました(7月下旬～8月初旬)。

両事業とも固定費が高いため、稼働率の変動が収益に大きく影響しており、固定費中の人件費を見直すことが課題です。派遣職員費を減らすことももちろんですが、前記の重点項目のとおり、同時に効率化や省力化を行い、全体の人件費率を計画的に低下させることが必須であることを確認しました。

③情報共有の仕組みづくり[昨年度に引き続き]

7月～8月、1～3月にコロナ感染対策の取組み、クラスター発生があり、予定していた研修は実施できませんでした。

1月より、法人として、仕事の改革の仕組みづくりに取り組んでいるコンサルティングファームと契約し(月額1万円)、情報共有の仕組みづくりとともに、「仕組みを現場に定着する手法・実践例」について、情報収集を行っています。4月より運営会議や経営会議、理事長との打合せで各部門に課題提起していく予定です。

(2) 法人(職員)全体で人材確保に取り組む

①各セクションが自セクションの魅力を発信する

情報発信の主体を事業管理者と位置づけ、法人のブログの投稿を各セクション単位で行う等にする予定でしたが、人材不足や新型コロナウイルス感染症の発生等により、進みませんでした。令和4年度の第一四半期に整備する予定です。

②直雇用の推進[昨年度に引き続き]

秋桜拠点（グループホーム・認知デイ）で7月に「お仕事説明会」を開催しました。地域へのちらしの配布は職員も行き、口コミ等の参加も求めた結果、2日間で参加は8名でした。

説明会後の見学や面接等の結果、11月までに正職員2名（グループホーム1名、特養1名）、契約職員3名（グループホーム2名と認知デイ1名）を決定しました。

法人全体では、4月1日から3月31日現在までで、正職員10名（介護職5名、相談職4名、調理職1名）、契約職員14名（介護職10名、相談職1名、看護職1名、事務職2名）の職員を採用・内定しました。

以上のうち、**口コミによる採用は1名、派遣職員からの直雇用は2名**です。

退職については正職員の退職は15名です。このうち定年による退職者が2名、健康・家庭の状況による退職が9名、その他が4名です。このうち2名の方については引き続き契約職員としてパートで働いていただいています。

正職員の退職の状況や新型コロナウイルス感染症の影響による慢性的な人員不足により、派遣職員数は12月以降、増やさざるを終わらせませんでした。

③20代人材の採用PR強化[昨年度に引き続き]

新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な対応ができていません。緊急事態宣言終了後の10月16日に県社協による「就職説明会」が開催され、法人として参加しました。

法人各事業所で実習を行う学生への働きかけを各セクションで強めた結果、3月卒業見込みの専門学校生2名の4月採用内定ができました。

来年度以降も実習生への働きかけは充実させていきたいと思っております。

(3) 人材育成に各セクションが目標を持って取り組む

①各セクションによる職員育成[昨年度に引き続き]

各セクションが新採用職員の導入研修や OJT の内容見直しや接遇研修の実施などを行っています。

②インターネットを利用したリモート研修の取組み

各セクションごとにインターネット配信の研修教材を活用し、「認知症ケア」、「見守り」などについての研修を行っています。

また、新型コロナ対策のため、就業型研修から切り替えられたオンライン研修についても、各セクションで参加しています。

運営会議で中堅職員を中心とした研修のニーズについて検討した結果、12月～3月に実施する予定であった「認知症の知識を再点検する研修」と「アンガーマネジメント研修」、「パワハラ防止研修」は、新型コロナ感染症対応のため、延期することとしました。

③各セクションでの研修の効果測定の実施

研修についてのアンケート（ヒアリング）を参加職員対象に実施は新型コロナ感染症対応のため、延期することとしました。

(4) 地域との連携と法人運営等

①新型コロナウイルス感染症流行による行事の中止

新型コロナウイルス感染症の第4波、第5波の流行とそれに伴う、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の適用により、昨年に引き続き、当法人でも地元の方も参加される行事はすべて中止いたしました。

また、地域の行事である、上溝夏祭り、上溝地区社協による「ぶらっと上溝・そうめん流し」も中止となっています。



この中で、展示行事である「さがみハート展巡回展覧会」は、展示のご協力が得られ、9月1日～9月30日に開催いたしました。

秋の恒例行事「上溝本久・コスモスセンターふれあいまつり」につきましては本久自治会と協議の上、中止することといたしました。

緊急事態宣言の終結に伴い、地域包括支援センターの地域での事業を10月以降、段階的に再開しておりましたが、第6波のオミクロン株の流行により、一部中止・延期等の対応を行っています。

この中で、上溝地区社会福祉協議会の「70周年記念事業」の一環である「折り鶴プロジェクト」には法人として協力し、ハウス入居者の皆さんを中心に折り鶴を折り、地区社協に届けています。

こういった新たな地域との交流には今後とも積極的に取り組んでまいります。

(5) 新型コロナウイルス対策

①新型コロナウイルスワクチンの接種

上溝緑寿会では、5月より、コスモスホーム入所者、ハウス入居者、グループホーム入居者の施設入所者と施設勤務職員についての「新型コロナウイルスワクチン優先接種」を、コスモスホーム配置医の協力により実施しました。

5月、6月で、ほぼ全員の2回の接種を修了しました。

ショートステイや、デイサービス、ホームヘルプサービスの在宅サービスで働く職員や地域包括支援センターや居宅介護支援事業の相談職として働く職員は、相模原市では法人で実施する優先接種の対象とならないため、一般接種会場での優先接種等を利用し、8月末までには、ほぼ接種を終了しています。

3回目の接種は、1回目および2回目を施設で優先接種した、コスモスホーム入所者、ハウス入居者、グループホーム入居者の施設入所者と職員について、令和4年2月から3月の期間で接種を実施しました

②日本財団によるPCR検査の実施

ワクチンを2回接種し、2週間以上経過しても感染する可能性はあり、また、体質等により接種が困難な職員もいるため、並行して日本財団によるPCR検査受検も6月か

ら実施しています。

ワクチン接種が進んでいるセクションとそうではないセクションがありますので、セクションごとに月1回～週1回の頻度で実施しています。この検査での陽性判定者は今のところ出ていません。

なお、日本財団によるPCR検査は当初の予定が延長され、令和4年4月末までとなっており、総利用回数は2000回近くになる見込みです。

③その他の感染対策

以上に加え、昨年度と同様、「職員の健康チェックの徹底」、「マスクや手洗い消毒の徹底」、「面会者制限」、「ボランティア等の制限」等を引き続き行っています。

また、国内や相模原市内の感染状況の変化に応じて、「運営会議」、「衛生委員会」で随時注意喚起の通知や情報提供を行いました。

感染対策資機材につきましては、神奈川県補助金を利用し、「簡易陰圧室」2台を購入しました（導入経費：7,590千円〔補助金100% 法人負担なし〕）。

④インフルエンザ予防接種

10月27日より、施設利用者95人、職員178人のインフルエンザ予防接種を行いました。

⑤職員・入所者の感染者の発生状況報告

7月以降、各セクションでの感染事例が発生しました。特に2月～3月のコスモスホームでの事例では大規模クラスター発生となりました。

【コスモスホーム(7月1日～)】

7月1日、2F職員よりコロナ感染症罹患の連絡があり、相模原保健所に連絡。同保健所の指示で、7月2日、2階ご利用者と職員全員のPCR検査を実施し、ショートステイ利用者1名の陽性(無症状)が判明(濃厚接触者は1名)が確認されました。

2名の隔離措置を実施し、陽性者は7月12日、濃厚接触者は7月16日に経過観察期間が終了し、症状の出現もありませんでした。他のご利用者や職員への罹患もなく、7

月 26 日、感染対応の終結となりました。

【秋桜デイ(8月19日～)】

8月19日、職員が36℃台の微熱だったが風邪症状があるため、内科受診をし、抗原検査が陽性でコロナ罹患と確認されました。

感染可能期間の当該職員出勤日に、職員8名、利用者8名がおり、全員健康観察を開始するが、症状出現者はいませんでした。保健所は職員と利用者には濃厚接触者はいないとの判断でしたが、職員については念のためPCR検査を実施し、8月23日に全員陰性であることを確認しました。

濃厚接触者はいないため、利用者は保健所によるPCR検査(行政検査)の対象となりませんでした。法人の判断で健康観察と同時に市販の試薬による簡易抗原検査を実施し、8月23日に陰性であることを確認しました。事業所は8月20日～24日まで休止し、事業所内を消毒、8月25日から事業を再開しました。

【コスモスホーム(2月9日～)】

2月9日2階ご利用者2名が抗原検査により、コロナウイルス陽性が確認されました。

コスモスホームでは発生と同時に陽性者の隔離対応やエリア分け、職員の動線の分離、防護の徹底等を行いました。感染の広がりを抑えることはできませんでした。2階ご利用者が延べ21名、3階ご利用者が延べ16名、職員が12名のコロナ陽性者が確認され、クラスターの発生となりました。

陽性になった方の状態は、無症状、軽い発熱、咳症状のみといった軽度の方が大半でしたが、基礎疾患のある方を中心に、新型コロナウイルスによる症状が治まっても、食欲不振や体調悪化が続く方も複数見受けられました。

新規陽性者の発生は2月27日を最後になくなり、3月7日に、隔離対応者が0名となりました。この間、ホームでは配置医と保健所のご指導を仰ぎながら、感染の広がりを防ぐよう職員の配置を日々調整を続けました。

感染状況はご家族にも逐次ご報告しご理解・ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

【その他のセクション】

以上のほかに、星が丘デイサービスでは、健康観察中の濃厚接触者である利用者が、同居家族のご理解が不十分であったためデイサービスを利用してしまい(8月20日)、事業所を休止(21日～23日)し、消毒、職員と利用者の健康確認を実施しました。

1月末から2月にかけては、ハウス(ご利用者2名)、認知症デイ秋桜(ご利用者2名、職員2名)、ずっと我が家上溝本町(職員2名)の陽性が確認されていますがいずれもクラスターに至ることなく終結しています。

同居家族等の感染により職員が濃厚接触者(あるいは疑い)となったり、発熱等による風症症状により新型コロナの陰性確認まで出勤待機とすることは、法人内全部門で発生しており、人員の配置に苦慮することが続きました。

⑥面会の対応について

感染防止のためさまざまな自粛が行われたことにより、ご利用者の活動性の低下や状態低下のリスクもよりはっきりしてきました。「感染対策」と同時に「ご利用者の生活リズムを守る」工夫が大切です。

9月30日の緊急事態宣言終了に伴い、コスモスホームでは11月4日、コスモスハウスでは11月1日、グループホーム秋桜では11月1日より、ご家族による面会を再開しました。

しかし、年明け後、オミクロン株の流行に伴い、1月下旬より各事業所とも面会中止の対応としています。

⑦令和3年度の振り返っての今後の「新型コロナ感染症対策」は…

3月までの当法人内での感染事例や、相模原市内の感染状況の推移を振り返ると、以下のようなことがわかってきました。

(1) マスク着用や消毒、三密対策は重要。しかし、オミクロン株による第6波では、感染対策を徹底しても完全に感染を防ぐことは難しい。

行動履歴がはっきりしている陽性者でも、最初の感染経路は把握できなかった。無症状者による感染の可能性はあるが、定期的なPCR検査では頻度の限界がある。

また、ホームでは陽性者の確認と同時に即時の隔離対応を行ったが、その時点で無症状の陽性者が複数名いることがそのあとのPCR検査で分かった。多床室（2人・4人）中心の従来型施設では、個室が限定されているため、感染を想定した隔離対応を行うことが施設構造的に難しい。

(2) ワクチン3回目の接種済者（職員）でも感染例があった。しかし、同時に罹患したワクチン2回の接種済者（職員）より症状は軽かった（1例のみではあるが）。

(3) 3月以降、ワクチン3回目の接種が進むにつれ、特に65歳以上の陽性者は相模原市内で激減している。マスク着用や消毒、三密対策が十分に行われていれば、クラスターの広がりは起こりにくくなっていることが感じられる。

上記のほかに、特にホームでは、医療のひっ迫により基礎疾患のある方でも、入院できない事例が複数例発生しました。

今後に向けての課題は、「**感染対策の徹底**」とご利用者の「**生活支援**」との両立です。

感染対策を徹底するほど、ご利用者にとっては活動量が少ない、変化に乏しい生活になりがちになります。このことは、利用者の重度化を招く大きなリスクの一つです。

今後も新型コロナウイルス感染症の流行がまだ続くことが予想されますので、**感染状況やワクチン効果などの見極めを重ね、ご利用者に対し「生活が続く」支援を組み立てる工夫に法人全体で取り組み続ける**ことが必要です。

(6) 苦情処理の状況

令和3年度の苦情処理の状況は以下のとおりで、報告事案はありませんでした。

施設・拠点	サービス種別	件数	備考
コスモスホーム	介護老人福祉施設	0	
	短期入所生活介護	0	
相模原市立星が丘デイサービスセンター	通所介護(星が丘)	0	
社会福祉法人上溝緑寿会コスモスセンター	居宅介護支援事業	0	
上溝高齢者支援センター	地域包括支援センター	0	
星が丘高齢者支援センター	地域包括支援センター	0	
グループホーム秋桜	認知症グループホーム	0	
認知デイ秋桜	認知症通所介護	0	
コスモスハウス	ケアハウス	0	
ずっと我が家 上溝本町	短期入所生活介護	0	
	訪問介護	0	
	通所介護	0	
コスモスセンター窓口	総務部門	0	

※苦情については、令和4年3月31日現在、終結しております。

※苦情の内容と対応の詳細については「苦情解決第3者委員会」に報告いたします。

事業報告(我が家ショート)

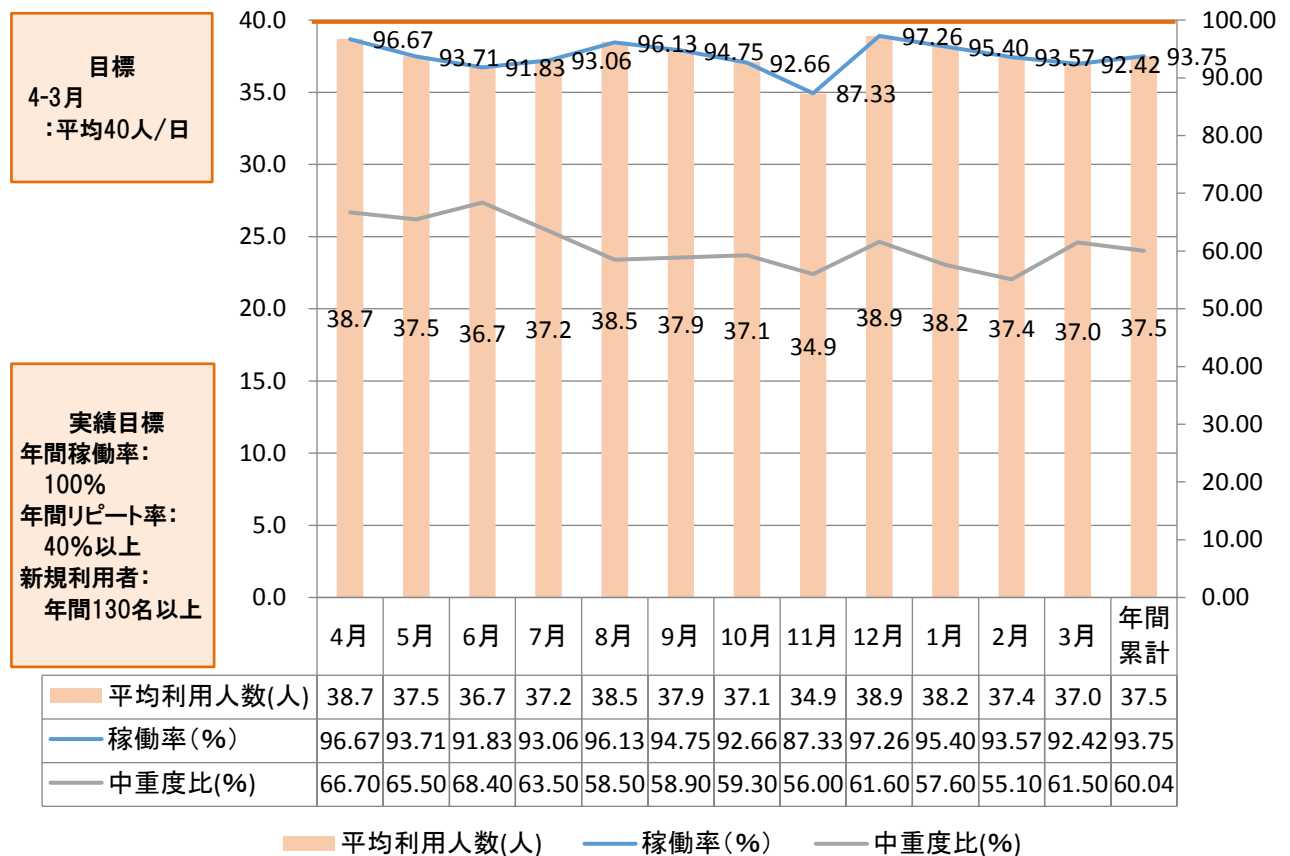
2021 年度

稼働率の達成状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年10月～11月に稼働率の落ち込みがありました。新規利用者の増加により、12月以降は稼働率を上げることができました。年間稼働率は、2020(令和2)年度より、0.3人増となりました。
----------	--

区分		累計
稼働状況	利用者数	
	目標(稼働率100%)	14,600
	実績(延人数)	13,687
	差(延人数)	-913
	達成率(%)	93.75
介護度	平均要介護度	2.9
	中重度比(%)	60.04

区分		累計
稼働状況	稼働率	
	1日平均利用者数	37.5
	稼働日数(日)	365
	定員(人)	40
	稼働率(%)	93.75
	実利用人数(人)	113

平均利用人数と全体稼働率の推移



目標
4-3月
:平均40人/日

実績目標
年間稼働率:
100%
年間リピート率:
40%以上
新規利用者:
年間130名以上

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)「いつでも」利用ができる取組み ⇒急な新規利用でも、即応できる対応力をつけていく	①[スタッフ]利用者の状態像を見て・聞いて確認できる力をつける ⇒着眼点・ポイントについて整理し、確認項目を整理する ⇒その人と関わる中で、ポイントをつかみ共有を図っていく	各ユニットでケア内容を検討し、それをまた他のユニットに引き継ぐことで複数のユニットを利用することができるようになる。
	②[システム]記録システムを活用していき情報を共有していく ⇒ケアのポイント・事故リスク等について、職種間で共有を図る ⇒朝のミーティング時に他職種協働で情報共有を図る	検討事項や改善事項について、記録を共有していることでタイムリーに検討することができ、早めに対応を取ることができた

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)「いつでも」利用ができる取り組み ⇒急な新規利用でも、即応できる対応力をつけていく	③[その他]各業務内容の見直し ⇒現行の業務内容を見直していく ⇒見直した内容を元に、マニュアルを作成する⇒計画的に有給5日を消化できるようにしていく	基本マニュアルを刷新し、現状の仕事の振り返りと職員個々の習熟度を確認することができた
(2)「だれでも」利用ができる取り組み ⇒利用できる状態像の幅を広げていくためにケア力全体を上げていく	①[スタッフ](ケア力を高める【認知症・中重度者対応】) ⇒外部研修を通じて、学んだことを伝達研修として伝えていく ⇒ミニカンファレンスの開催を通じて実践の中から学んでいく ②[システム]研修体系を組み、年間を通じて、学ぶ機会を作る ⇒全体の研修体系を作っていく ⇒個別スタッフ(常勤・契約・派遣)の目標に準じて、学ぶべき内容を検討し、実施していく ③[その他]介護用品等の整備 ⇒様々な状態像に応えることができるよう、必要な物品(チルド式車椅子、エアベッド等)の整備を段階的に進める	各フロア会議やケースカンファレンスの実施を通じて、認知症への対応や個別ケース事例を学び、対応力があがる ユニット全体での課題について取り組むことはできたが、各職員の習熟度や関心となることに基づいて、体系的に研修を組むことができなかった。 環境整備に伴う備品類の整備(センサーやL字柵等)ができ、部屋の切り替えに要する時間短縮を図ることができる
(3)「選ばれる」サービスである取り組み ⇒「安心」と「楽しみ」を軸に、利用者や家族から選ばれるサービス体系を作っていく	①[スタッフ]利用者の「楽しみ」を見出す力をつける ⇒利用者の「興味・関心」に着目した日中活動を提供していく ⇒その人の「できること」を実践し役割を見出していく ②[システム] ⇒(家族・CM)利用終了後の報告書の内容について刷新 ⇒(本人)日中活動のバリエーションを増やしていく	「興味・関心」に着目して、利用ユニットにとどまらず、全体で活動を提案することができた 日常的に「役割」をもっていただけるよう、食器を洗う機会や洗濯物を畳む機会を作ってきた。
実績目標	○年間稼働率 :100% ○新規利用者 :年間120名以上	実績結果 年間の新規利用者合計165名、実利用者数302名と過去最多の方が利用された。

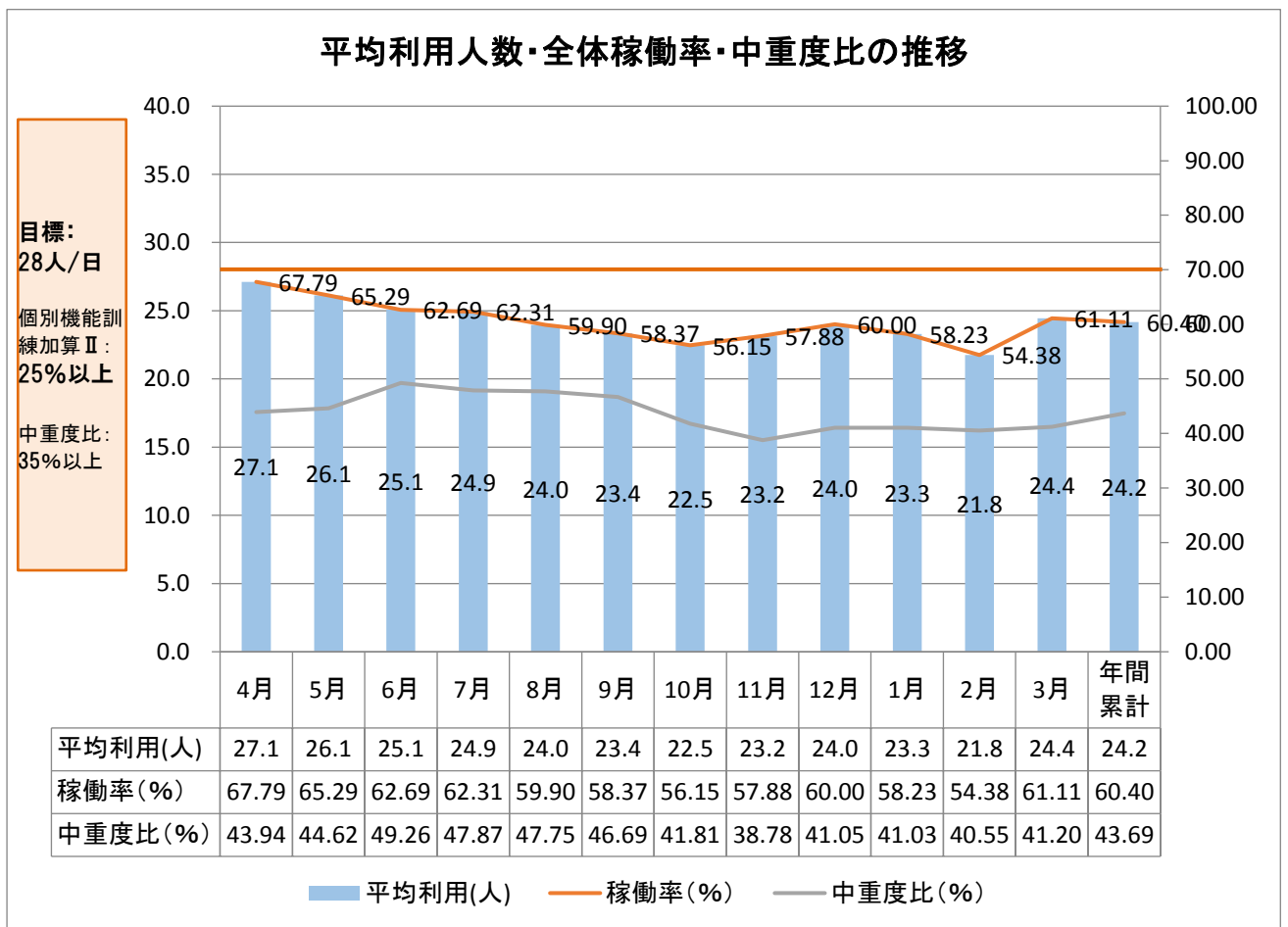
事業報告(我が家デイ)

2021 年度

稼働率の達成状況	年間を通じた平均利用人数は、24.2人(令和2年度は24.6人)と伸び悩みました。2月の21.8人台を底に、3月は24.4人、令和4年度4, 5月は25人台となっており、回復の兆しは見えてきています。中重度比は43.6%と令和2年度の40.6%より増えました(収益性の向上)。
----------	--

区分		累計
稼働状況	延利用者数	8,652
	実績(延人数)	7,466
	差(延人数)	-1,186
	達成率(%)	86.29
介護度	平均要介護度	2.2
	中重度比(%)	43.69

区分		累計
稼働状況	1日平均利用者数	24.2
	稼働日数(日)	309
	定員(人)	40
	稼働率(%)	60.40
	実利用人数(人)	79.3



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)より個別ニーズ・希望に沿ったプログラムを提供していく	[介護計画の内容を刷新します] ①在宅生活を維持していく上での課題を分析し、目標と実施内容、その取り組みについて、利用者にも見やすくわかりやすいものへ変更していく	計画書自体の見直しが十分にできなかったが、個別性を重視したケアの取り組みが向上してきたので、来年度はそれを書面として伝えていけるようにしていく
	②生活行為(入浴・洗濯・掃除・炊事など)の機能訓練プログラムを増やしていく(小グループ単位)	生活行為の一部として、特に昼食時の準備や洗濯について、取り組む項目を日常的に行うことができた。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)より個別ニーズ・希望に沿ったプログラムを提供していく	③取り組みの成果について、効果測定を実施していく ADL・意欲調査(7・11・3月) 【タッチアンドゴー・5m走・握力計測】	今年度は、体力測定・意欲調査を、まずは実施する。今後は定期的に実施し、経過を見ながらケア内容に反映していけるようにする。
(2)役割が持てる機会を作り、自己肯定感を高めていく	①役割を持てる活動として提供できるプログラムを増やしていく (例)保守・点検活動/炊事関連/花木の管理/広報活動など ②取り組みの成果の見える化を図っていく →簡易的な貯金箱を用意し、一日の活動に対して、コインを提供して、それに貯めていく ③地域の方(保育園・幼稚園/地域住民/商店街等)と関わる機会を作っていく 【コロナ情勢により調整あり】	活動の一環として、人の役に立つことを実施することが日常化してきており、今後に向けては、より種類を増やしていくと同時に、事前に提供内容がわかるような仕組みを検討する 具体的な形での実施はできなかったが、今後は活動と報酬の循環を形作っていくことを検討していく 広場でのラジオ体操は継続して取り組むことができたが、それ以外については、コロナ禍の影響もあり、未実施となる
(3)個々の利用者の状態(ADL・認知機能等)に合わせて、適切に介助・対応が取れるスキルを上げていく	①介護技術の向上を図る ⇒歩行支援・移乗介助の基礎を再度確認する ⇒スキルチェックシートを元に自己チェックを図る ②疾患別ケア・認知症対応の理解を進める ⇒月1回の定例会議で「各テーマ毎」に全体で学ぶ機会を設ける ③[トランス(移動介助)]基本動作について学び、実践する(リハビリ的観点を含めて) ⇒基本動作について学ぶ(デイ会議等) ⇒日常的に実践する(互いに確認し合う) ⇒理解度についてチェックする	内部研修を定期的実施し、普段の介助内容についてスタッフ自らが振り返りをする機会を作ることができた 認知症ケアについては、職員全体で基本的なケア・かかわり方について身につけることができ、疾患別ケアでは、特に食事介助での内容について理解を深めることができた 定期的な研修や日々の実践の中で、お互いに確認し合う中で、個別介助での介助方法について理解を深めていくことができた
実績目標	○年間利用平均人数:28名 ○中重度(要介護3~5)の月別延利用者数:全体の35%以上	実績結果 年間平均利用者数:24.2名 中重度:43.93%

事業報告(我が家ヘルパー)

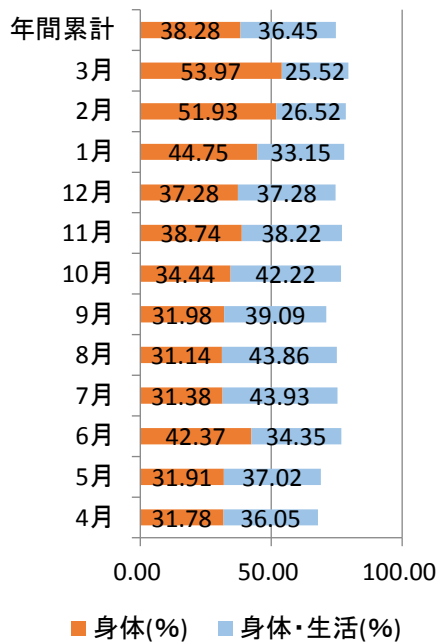
2021 年度

稼働率の達成状況 新型コロナウイルス感染症の影響や正職員ヘルパーの一時的な病欠等により、サービス事業量は令和2年度と比べ、約72%となりました。報酬単価の高い、身体介護、身体・生活介護のサービス提供は約75%(令和2年度67%)と増え、収益性は上がりましたが、収益は赤字でした。

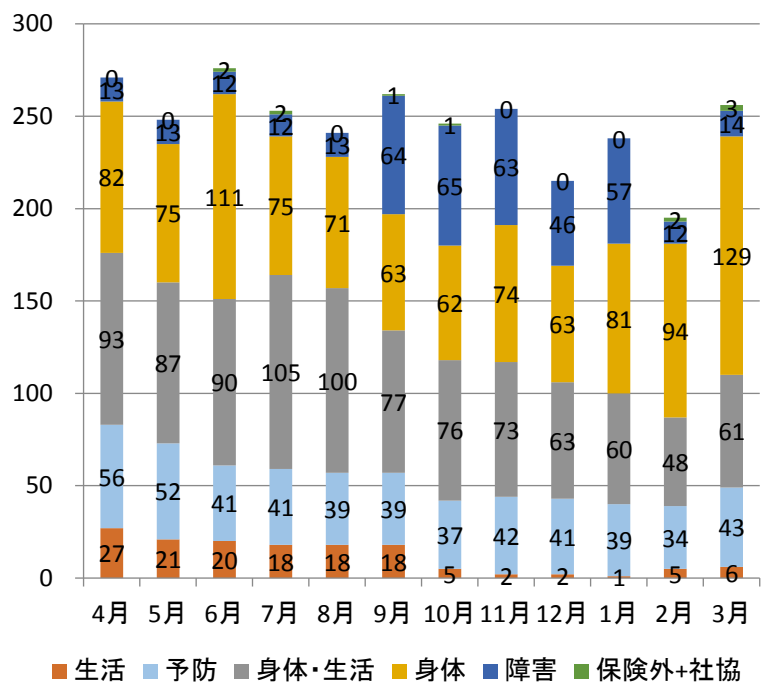
区分		累計	
稼働状況	介護保険	予防(回)	504
		生活(回)	143
		身体・生活(回)	933
		身体(回)	980
		合計(回)	2,560
		予防+生活(%)	25.27
		身体生活(%)	36.45
		身体(%)	38.28
		身体+身体生活(%)	74.73
		対象者数	28.3

区分		累計	
稼働状況	保険外	実施回数	12
		対象者数(人)	0.9
	障害	家事(回)	0
		身体(回)	384
		合計(回)	384
		対象者数(人)	1.4
社協	家事(回)	0	
	対象者数(人)	0.0	

身体介護・身体生活の占める割合・介保のみ(目標40%以上)



サービス提供内容の状況(実施回数)



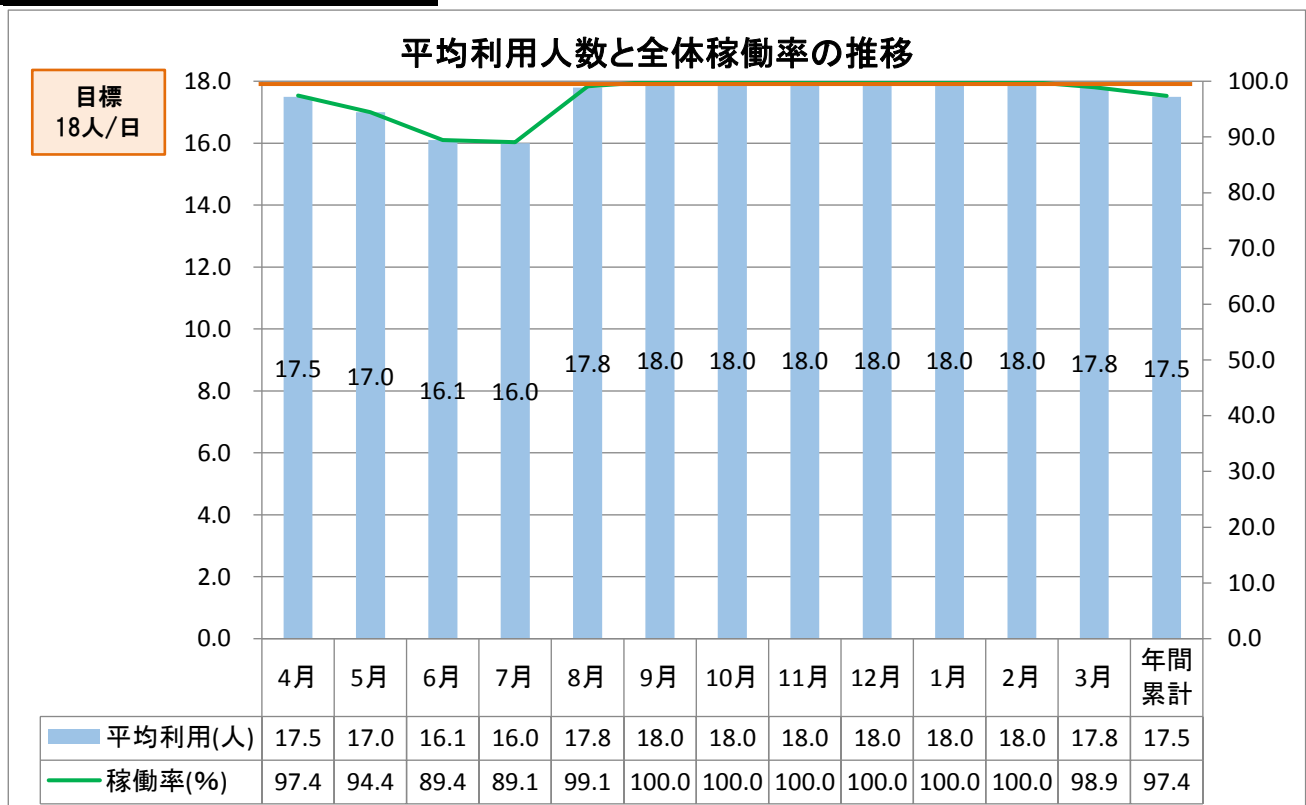
取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)ご利用者の全体像を把握し、直ぐケアに生かし対応できる。	①必要な援助内容とアセスメント・モニタリングを通じて検証し、必要に応じてケアマネにプラン見直しの提案をしていく。	定期的なアセスメントができなかった。利用者の本意を知るためには記録の書き方を見直す必要がある。
	②障害受容のプロセスに応じて接することができるようにコミュニケーション技術研修を行う。	利用者が言わんとすることを簡潔にまとめて伝えるようにするためにコミュニケーション技術の強化をしていきたい。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り	
(1)ご利用者の全体像を把握し、直ぐケアに生かし対応できる。	③看取りに強い事業所へと成長するために看取りケアに関する検討・勉強会を行う。	報告・共有はできたが、個人のスキル指導ができなかった。	
(2)身体介護技術の維持と認知症ケアの理解を深め、ケアが向上できる。	①身体介護技術・認知症ケアに(理解)に対応できるように年4回研修を行う。	4回の研修は実施できた。認知症利用者に対する正しい知識を持ちチームで関わることは継続していく。	
	②「利用者を知る」情報を共有し、その人が生活するうえでどのようなリスクがあるかを検討する。(事故・クレーム防止)年2回	活動後口頭での報告はあるが、記録等システムの活用が不十分だった。	
	③メンタルケアが日常的に可能になるように年2回の研修と相談できる環境を整えていく。	繰り返し研修を受けることで、活動につながられた。	
(3)秋桜理念を実践(DOする)職員集団の確立	①業務内容を整理し、サービス利用を増やし毎月の全体のサービス量に占める身体介助・身体生活援助の割合を70%にしていく。	6月以降身体・身体生活割合が70%以上を超えることができた。	
	②働きやすい職場として「訪問介護の手引き」を作成し、訪問介護の魅力を発信する。	新型コロナの影響で職員と検討する時間が少なかった。内容を再確認し、安心して働けるように進めていく。	
	③「た」「の」「し」「く」を職員のモチベーションにして憧れを持てるような事業所を目指す。	新型コロナの影響で対話できる時間を作るのが難しかった。職員の「生きがい」「働きがい」を発揮できるようにしていきたい。	
実績目標	○サービス提供責任者:1ヶ月の活動時間合計100時間	実績結果	正職員の病欠があり、未達成(平均43.2時間/月)令和4年4月より本格復帰し実績は上がっている。

稼働率の達成状況 8月以降、100%の稼働率を維持しましたが、4月～7月に空室があったため、年間では17.5名と100%の稼働率は達成できませんでした(97.4%)。ご利用者・職員とも新型コロナウイルス感染症の罹患者はいませんでした。待機者は16名で堅調に推移しています。

区分		累計	
稼働状況	延利用者数	目標(稼働率100%)	6,588
		実績(延人数)	6,396
		差(延人数)	-192
		達成率(%)	97.09
介護度	平均要介護度	2.8	
	中重度比(%)	49.71	
稼働率	1日平均利用者数	17.5	
	稼働日数(日)	365	
	定員(人)	18	
	稼働率(%)	97.35	

区分		累計
稼働状況	入退所	
	入所(人)	2
	退所(人)	3
空室情報	空室数(延人数)	192
	入院者数(人)	0
	入院延べ日数(延人数)	0
	待機空室数(延人数)	192



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)感染症予防対策と利用者に活躍できる場がある暮らしの両立	①良く食べる・排泄する・歩く・寝ることを基本としたケアと環境作り(歩行介助が必要な方への歩行UPの重点意識)	ユニット内では歩けていても、外出すると以前より歩けなくなっている方が増えた印象である。コロナ禍の影響もあったが、ご利用者の生活の幅がユニット内のみにならないよう工夫していきたい。
	②毎日、ご利用者主体となる生活活動を行う。出来ること、やりたいことに視点を当てた日々の継続性	ご利用者に毎日の家事を主体的に行っていただくことを継続できた。ご利用者のできることに合わせた支援を毎月の会議でも話している。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)感染症予防対策と利用者に活躍できる場がある暮らしの両立	③毎月の行事、外出を基本とした社会参加と社会とのつながりのある企画を提供する	コロナ禍であったが、少人数制にしてグループを分けるなど工夫を行い、外出行事も行うことが出来た。ご家族や地域の方と一緒に行事など楽しむ場を作ることができなかった。
(2)様々な行動・心理症状をスタッフが自分ごととして考え、創意工夫できるチームケアの向上とフォローアップ体制の強化	①利用者の心理行動症状を利用者のSOSと捉え、原因を探り、否定せず寄り添うケアの確立(ひもときシートの活用やケースカンファレンスの実施)	ご利用者の訴えを否定せず、まずは話を伺うことは定着してきている。毎月の会議でカンファレンスは行っているが、ひもときシートは活用できなかった。
	②利用者の想いを知る⇒症状の要因追及とチーム内のケア方法の共有と実践	チーム内のケア方法の共有は会議に行っているが、実践方法がスタッフによって変わってしまうことがある。特に会議に出席できていないスタッフのケア方法の違いがみられることが多い
	③不安の早期発見(観察力の向上)と日々に利用者、スタッフ共に笑いや楽しみのある会話と行動の実践(対応力の向上、利用者の興味や関心の発見力の向上)。	スタッフの対応力の向上について、特にご利用者とのコミュニケーションを円滑に行えないスタッフがご利用者の行動・心理症状に立ち会うことが多い。引き続き、チーム内の課題としていきたい。
(3)秋桜理念を実践(DOする)職員集団の確立	①秋桜理念、秋桜職員として必要な知識技術を習得していく(行動目標45、OJT、研修等)	毎月の会議で計画的に研修を行うことが出来た。研修企画が管理者がすべて行っている状況を少し変えていければと思う。
	②職種の違いやスタッフが変わっても変わらない秋桜スタイルの確立と実践(仕事の中身やシステムの構築、人材育成、環境整備)	秋桜理念を大切に仕事(ケア)を会議や委員会で話してきたが、派遣職員も含めた全職員が同じ価値観を持ち仕事を行うことは引き続きの課題であり、来年度も必要であると思う
	③『いいね!』を増やし、スタッフのモチベーションと現場の主体性、チーム力の向上	現場の主体性があり、スタッフからの提案や意見交換も多く出来ている。職員体制について、全員直雇用を目指していくことがモチベーション、チーム力の向上にも繋がり、今後も採用に向けた行動をとっていきたい。
実績目標	〇年間を通じて18名を維持する。	実績結果 4月～6月において、空床が出来てしまい、年度の平均が17.5名と目標達成出来なかった。

事業報告(秋桜デイ)

2021 年度

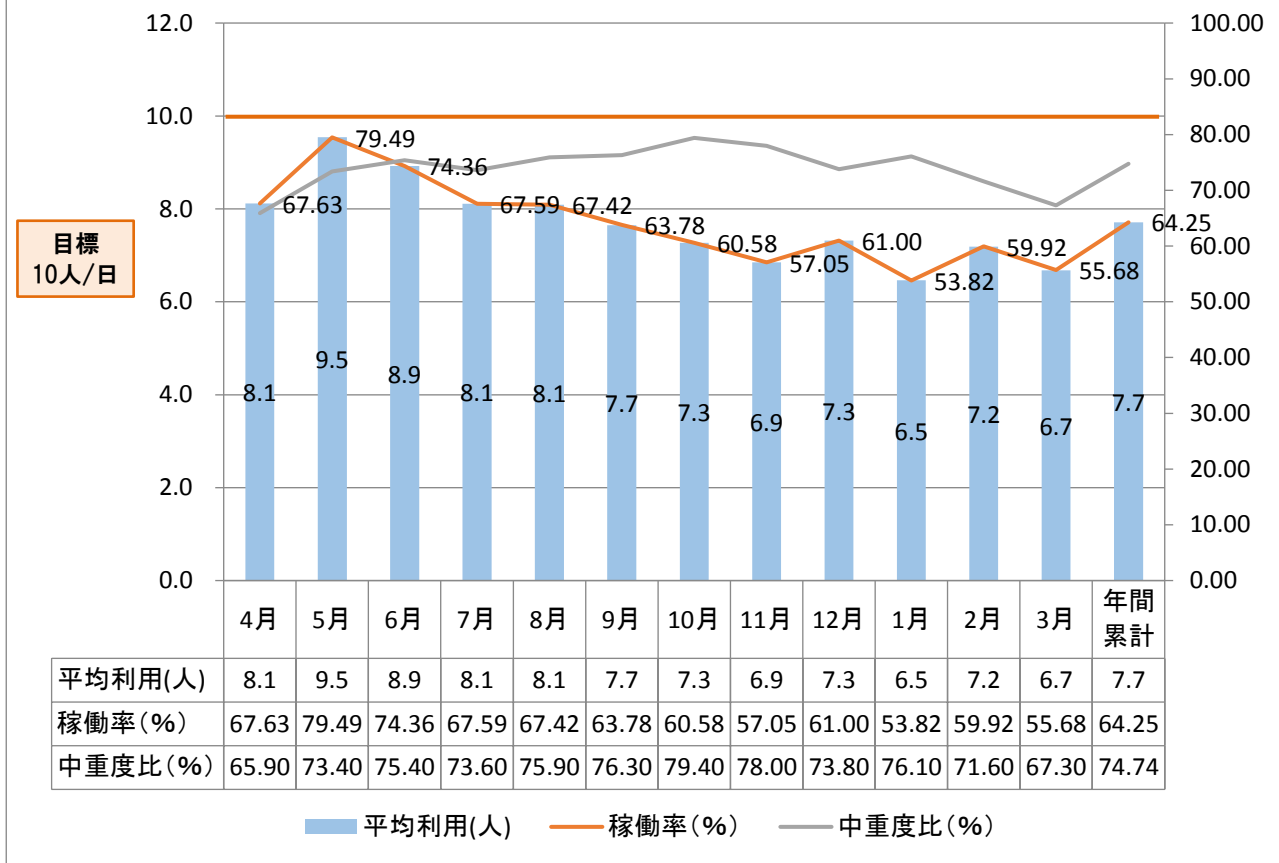
稼働率の達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響から、7月以降の稼働率が伸び悩みました。下半期は漸増傾向にありましたが、年間では平均7.7人/日と目標には達しませんでした。

区分		累計
稼働状況	延利用者数	2,970
	実績(延人数)	2,290
	差(延人数)	-680
	達成率(%)	77.10
	介護度	3.0
	中重度比(%)	74.74

区分		累計
稼働状況	1日平均利用者数	7.7
	稼働日数(日)	297
	定員(人)	12
	稼働率(%)	64.25
	実利用人数(人)	17.1

平均利用人数・全体稼働率・中重度比の推移



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)感染症予防対策と利用者が活躍できる居場所作りの両立	①出来ること、やりたいことシートの活用で、できることに視点を当てたケアの確立	できることに視点を当ててケアをすることは出来た。調理担当と一緒に昼食作りに参加されるご利用者が増え、ご利用者全員が同じことを行うサービスではなく、やりたいことを行っていたくようにしている。
	②歩きたい気持ちを大切に、歩行能力が維持できる環境整備とケアの確立(歩行回数、量UP)	昨年度よりも平均要介護度・中重度比も上がり、歩行に介助が必要な方も増えたが、デイサービスでは車いすは使用せず必要時には複数人の介助であっても歩いて移動していただくことを大切にしました。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)感染症予防対策と利用者が活躍できる居場所作りの両立	③感染症予防対策の継続と日中活動量UPの為の工夫と実践(コロナ禍以前の外出企画や行事に戻せる努力)	新型コロナウイルスの影響を受け、外出行事は多く出来なかったが可能な時期には行けた。日光浴を増やしたり、庭を散歩したりなど外に行く活動を取り入れるように工夫した。
(2)ご利用者の安心できる居場所作り、ご家族の不安や苦勞の軽減	①利用者の心理行動症状を利用者のSOSと捉え、原因を探り、否定せず寄り添うケアの確立(ひもときシートの活用やケアノートの活用)	ひもときシートの活用は行えなかったが、会議にて心理行動症状がみられるご利用者の個別カンファレンスを行い、都度対応方法の検討を行った。ケアノートの活用や更新については課題である。
	②利用者の想いを知り、ご家族や他支援者と繋がりチームケアの実践	デイサービスだけでなく、ご自宅において必要なことも出来ることについてはご家族、ケアマネからの依頼に応えられるように対応を検討、実施できた事例が何件かあった。今後も様々なニーズ、相談に乗れる柔軟さを持つ
	③利用者の状態低下時や心理行動症状出現時にもデイサービス秋桜が拠り所になるケアの工夫と実践	他デイサービスで断られても、新規の依頼は断らずに、ご本人が気持ちよくご利用できることを大切にしてきた。状態が低下すると施設入居や他サービスに流れていくケースが何件もあり、今後も引き続きの課題である。
(3)秋桜理念を実践(DOする)職員集団の確立	①秋桜理念、秋桜職員として必要な知識技術を習得していく(行動目標45、OJT、研修等)	毎月の会議にて、内部研修は計画的に行うことができた。
	②職種の違いや働くスタッフが変わっても変わらない秋桜スタイルの確立と実践(システム構築、人材育成、環境整備)	毎月の会議や身体拘束適正化、虐待防止委員会にて、ご利用者への基本的な関わり方の確認や事例検討などを通して大切にしていきたい考え方についてなど話し合いの機会を持った。
	③『いいね!』を増やし、スタッフのモチベーションと現場の主体性、チーム力の向上	チーム力は保たれているが、新型コロナやイレギュラーなことが起こるとモチベーションを保つことが難しくなる。今後もスタッフ間のコミュニケーションを多くとり、課題があっても乗り越えられるチーム力にしていきたい。
実績目標 ○10名/1日		実績結果 7/71名/1日 新型コロナの影響も受けたが、稼働率が昨年度よりも低下した。新規契約を増やし、実利用者数の

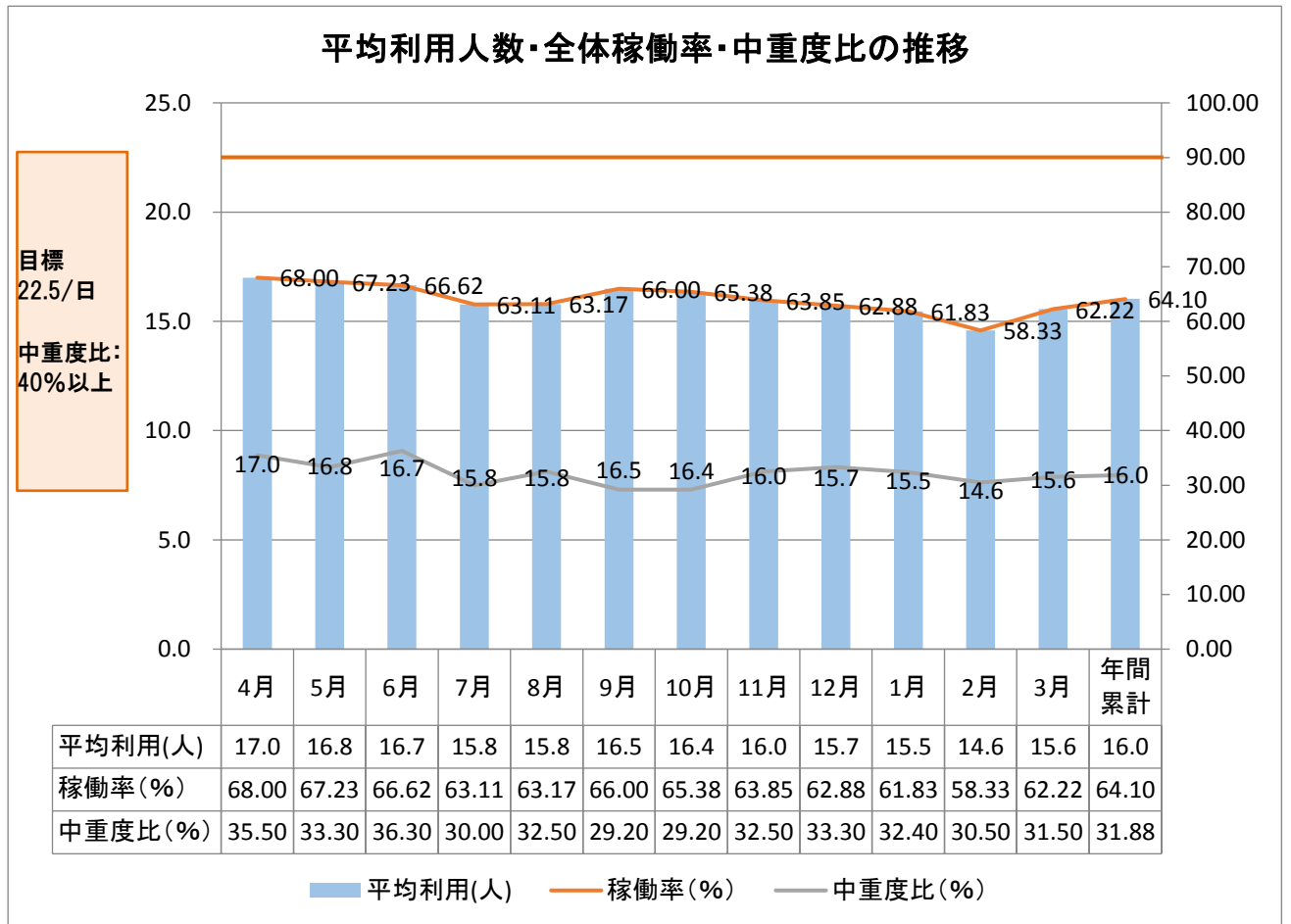
事業報告(星が丘デイ)

2021 年度

稼働率の達成状況 稼働率は、年間を通じ16名～17名に推移しました。コロナウイルス感染症による利用控えの影響もありましたが、複数回利用の中重度の方の利用減などがあり、平均利用人数は、令和2年度の18.2人に及ばず、減少傾向が続いています。

区分		累計	
稼働状況	延利用者数	目標(平均22.5名)	6,908
		実績(延人数)	4,920
		差(延人数)	-1,988
		達成率(%)	71.23
	介護度	平均要介護度	2.1
	中重度比(%)	31.88	

区分		累計	
稼働状況	稼働率	1日平均利用者数	16.0
		稼働日数(日)	307
		定員(人)	25
		稼働率(%)	64.10
		実利用人数(人)	52.6



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)認知症の方が笑顔で取り組める活動を提供する。	①ライフストーリーの作成を行い各利用者の生活背景を読み取り職員全体で共有する(ご家族への聞き取りも実施 対象6名/年)	年間6名は実施できているが、聞き取り事態に時間がかかってしまっている。また、年度途中で聞き取りポイントの整理を行い時間短縮行う。
	②ライフストーリーをもとに利用者の意向や認知症状にあった少人数プログラムを検討を行う。	少人数の活動プログラムの提供は実施しているが、同じ内容の活動が継続されてしまっている状況がある。月単位で活動内容を工夫するなど変化と継続性を高める必要がある。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)認知症の方が笑顔で取り組める活動を提供する。	③感染対策に配慮した機能訓練外出など施設外での活動の場を提供する。	年度内で4回の機能訓練外出を実施している。ご家族、利用者ともに参加には意欲的であり、感染状況を加味しての開催の可否判断に難しい状況がある。
(2)多数の方の状態像にあった対応できる技術を習得する。	①統一ケア 個々の利用者状態変化の記録をわかりやすく記載し、ケアの根拠となるようにする。	カンファレンスが習慣化されており、各職員が疑問に思っていることが短時間で統一出来ている。記録についての研修を実施しているが、短時間で検索しやすい記入方法を習得することは難しい。
	②認知症ケア 認知症の理解を職員へ周知するため計画的に勉強会を実施する。(例:デイ会議内)	予定した2回の勉強会は実施できている。加えてその他研修でも認知症に関連した内容の研修を取り入れ実施。外部研修への参加ができておらず次年度オンラインを始めとして研修参加行う。
	③新規利用者獲得 各居宅支援事業所への空き状況の配信を行う。 生活活動の取り組み状況など広報誌の作成を行う。	空き状況の配信をおおよそ2か月毎のタイミングで実施。空き状況の中で活動内容や取り組み内容などを記載している。空き情報との同一の書面であるため内容量が少ないため今後書式の変更も検討する。
	④状態把握 各種指標を用いたADL評価を行い、数値化を行い見える形にする。(例:バーセルインデックスなど)	数値化については各種指標の測定に必要な研修に参加ができておらず未実施となっている。
(3)地域から孤立することなく過ごすことができる	①地域ケア会議等地域への集まりへの参加	地域ケア会議をはじめとする。集まりについては感染状況により書面開催への変更や中止となってしまっており、参加回数自体は年度内で2回となっている。
	②行事や催しものなど、地域の方が参加できるようなイベントの検討	地域住民のイベント参加や地域ボランティアの活動再開など検討は行ったものの感染状況により参加には至っていない
実績目標	○年間で1日平均22.5名(稼働率90%) ○中重度(要介護3~5)の実利用者割合:全体の40%以上	実績結果 ○16.0名/日 ○中重度 32.7%(実)31.5%(延べ)といずれも目標に達しませんでした。

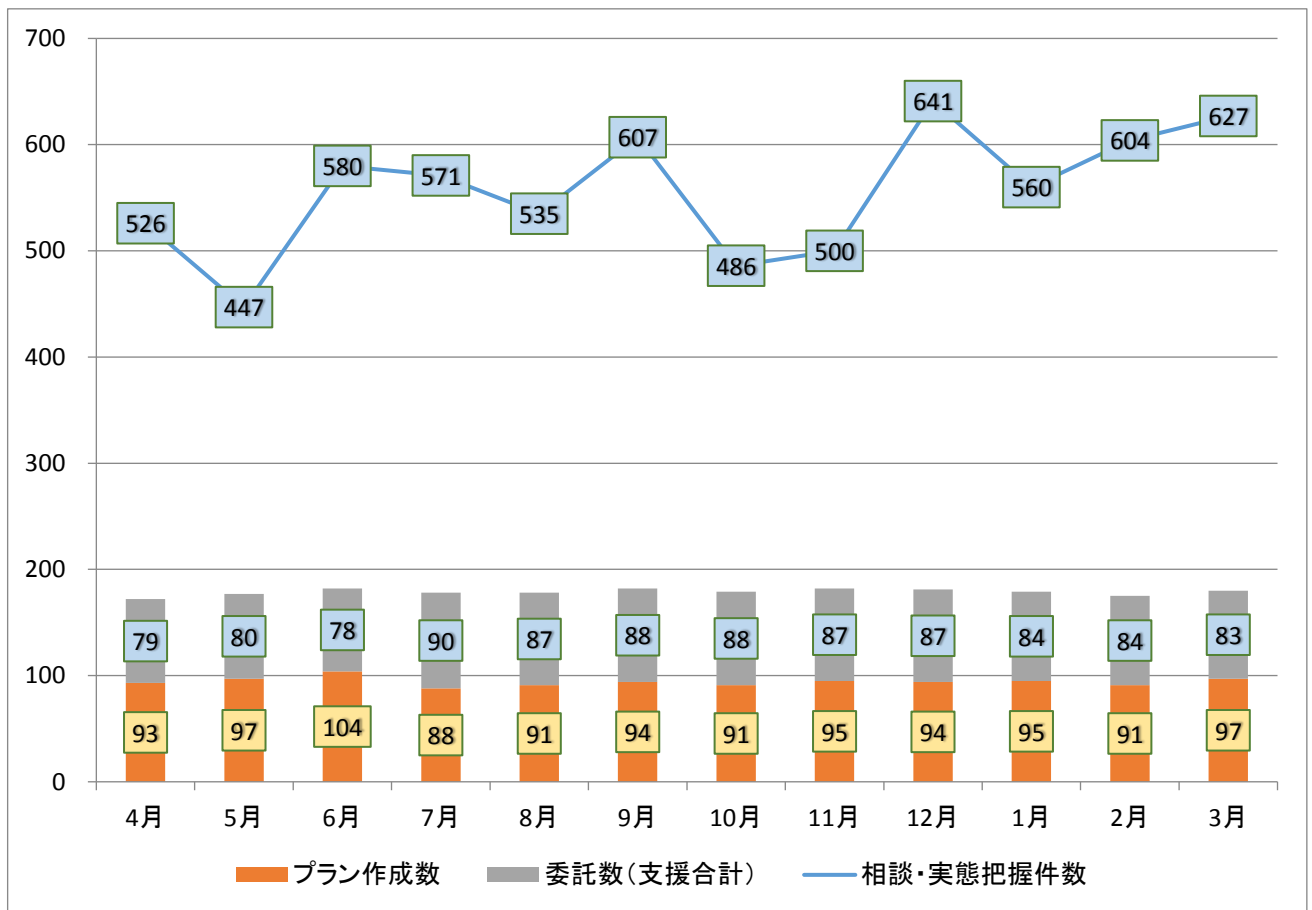
事業報告(星が丘地域包括支援センター)

2021 年度

稼働率の達成状況 上半期は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止が大半でしたが、下半期より感染状況を把握しつつ、徐々に再開してまいりました。その中で相談件数は年度を通じて増えていきます。職員異動がある中で、適切で的確な対応をチームで心がけました。

区分		累計
稼働状況	相談等	相談・実態把握件数 6,684
		うち新規 279
代行	介護保険	268
	市サービス	51

区分		累計
予防プラン	総合事業利用者	692
	要支援1	170
	要支援2	268
	委託数(支援合計)	1,015
職員	常勤職員	4
	非常勤職員	1



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)多様なニーズに对应していけるように個別支援の強化を図る	①経験や学びの共有 職員の経験や学んだことをシートに記入し、全員で共有できるようにする	制度の運用について迷ったときは、自身で市選べる所内で確認する習慣を身に着ける必要がある。
	②アセスメントの強化 個人の強み(ストレングス)や弱みを把握し、支援に活かしていけるようになる	アセスメントを行い、個人に合わせたストレングスを引き出せるようにする。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)多様なニーズに 応えていけるように個別 支援の強化を図る	③アセスメントの強化 その人の地域での暮らし・生活史を 理解し、支援に活かしていけるよう なる	関わりを継続していく中で、本人の生 活史に着目することを意識していく
(2)地域の理解を図る (地域で生活するとい うこと、地域を構成す る組織、団体等の理 解、キーマンの共有、 星が丘地区の歴史や 特徴の理解等)	①地域の団体の理解、顔の見える関 係の構築 老人会やサロン、シニアサポート活動 やいきいき百歳体操、いこいの広場 や民児協定例会など、団体や組織の 会議や定例会、集い場などに職員全 員が訪問または参加する	コロナ禍、マスク生活で顔を覚えにく い状況が続くので、各団体の活動に は短時間でもこまめに顔を出し、お互 いを顔なじみになることを意識する。
	②地区アセスの充実(更新) 昨年度作成した地区アセスを更新す る。必要な情報を意識して業務を行 うことができる	日々の業務の中で地域のハード面の 変化は随時共有する。ソフト面も共有 していく。
	③生活支援コーディネーターとの連 携 生活支援コーディネーターと地域の 課題を検討し、課題の抽出を行う	日ごろの業務の中で気になることを随 時共有していき、目指す方向がぶれ ないようにする。
(3)上記二つの項目 を達成するためにセン ター職員としての資質 の向上を図る	①上溝高齢者支援センターとの連携 委託事業の取組等の共有や職種間 の連携を図る	今年度はできなかったが次年度は開 催予定。
	②チームプレイの理解や強化 担当以外のケースへの訪問による共 有や専門職の強み、職員の強みや 弱みの理解し共有する)	年度途中の急な体制変更により、最 低限のことでいっぱいであったため自 分で考えて動く意識付けを
	③ファシリテーターやスーパーバイズ の理解 事例検討や会議・ミーティングの司 会やファシリテーターを職員全員が 行う。学ぶ機会を作る	司会進行を輪番制もしくは複数で 行っていく。
実績目標	新型コロナウイルス感染症の影響等	実績結果 市内感染者数の増減により、各 種事業の可否判断が難しい局面 があった。また、相談件数が増加 しているため、職員の感染防止に 最大限留意した。

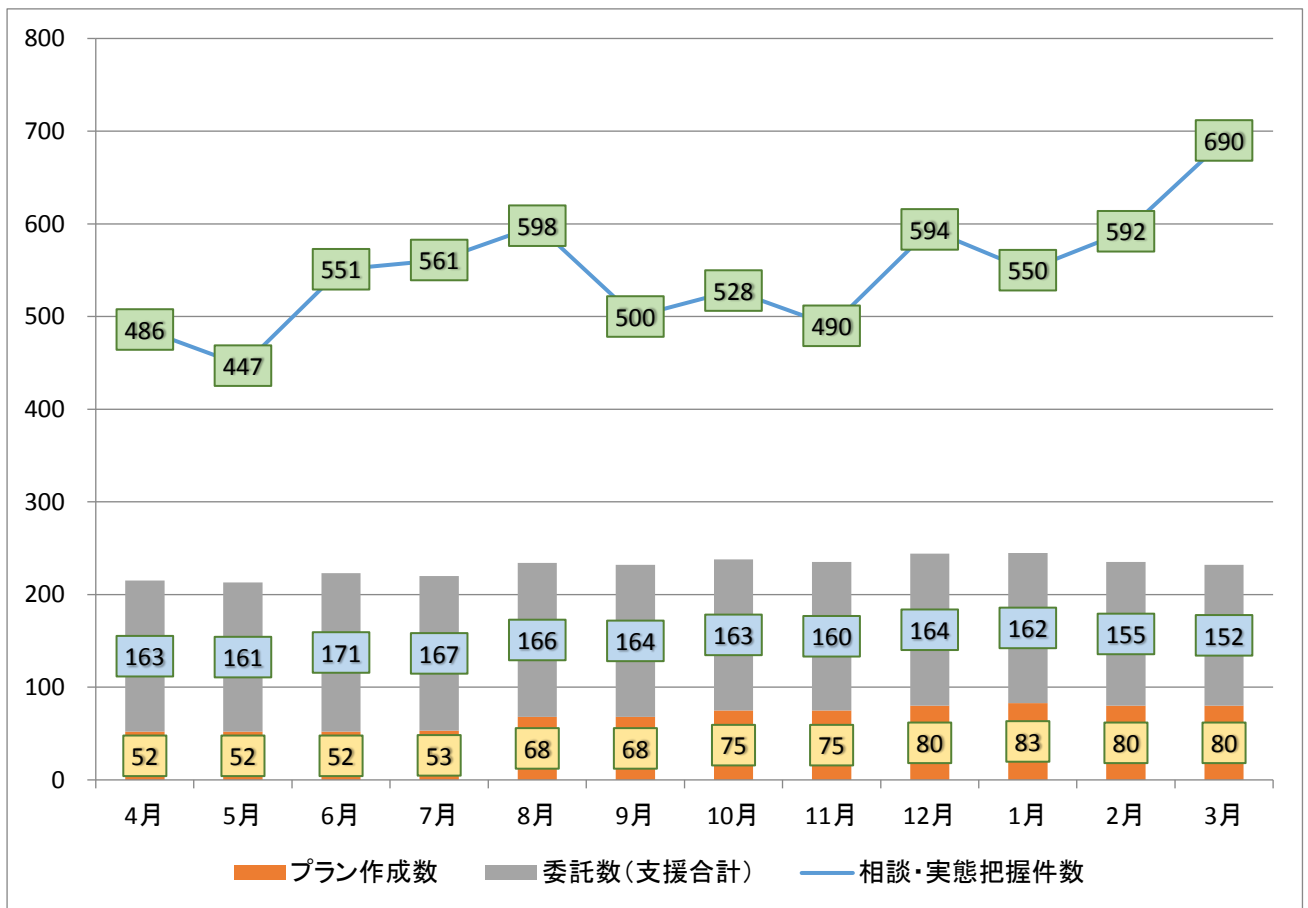
事業報告(上溝地域包括支援センター)

2021 年度

稼働率の達成状況 事業の大半が新型コロナウイルス感染症対策で中止される状況で年度がスタートしましたが、感染状況を把握しながら、徐々に事業を実施していきました。また、相談件数が着実に増加しており、一つ一つの相談に丁寧かつ迅速に取り組むように職員全員で取り組みました。

区分		累計
稼働状況	相談等	相談・実態把握件数 6,587
		うち新規 580
代行	介護保険	367
	市サービス	52

区分		累計
予防プラン	総合事業利用者	399
	要支援1	139
	要支援2	280
	委託数(支援合計)	1,948
職員	常勤職員	5
	非常勤職員	0



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)人材の育成(同じ気持ち、同じ方向を向いて仕事ができるようになる)	①資質の向上を図る。コミュニケーションの機会を持つ 勉強会又は事例検討会、カンファレンスなど月2回定例会開催を目指す	今年度は、「センター内の体制や環境を整える」「コミュニケーションの機会を増やす」はできたが、ミーティングや勉強の体制作りまでには至らなかった。令和4年度は着実に実施していくことを職員全員で確認した。
	②業務チェックシートを活用し事業や業務の理解を深める 業務チェックシートにて確認しながら必要な助言や勉強会を実施。職員全員の資質の向上を図る。	業務チェックシートの効果的な活用には至らず。来年度は新人だけでなく職員全体の振り返りシートとして活用できるように考えている。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)人材の育成(同じ気持ち、同じ方向を向いて仕事ができるようになる)	③センター業務を理解する 業務マニュアルや各事業の手引き等の読み合わせを行い事業に対する共通理解を図る	今年度は資料を整理し、内容を確認したが、職員全員が十分に理解したかを確認・徹底はできなかった。来年度の全体ミーティングで定期的実施していく予定である。
(2)地域の理解(地域を構成する団体や組織の考え方や特徴などを理解する)	①地域の団体や組織の理解や顔の見える関係の構築 老人会、サロン、シニアサポート活動、ボランティア団体等に職員全員が積極的に訪問する	コロナ禍で積極的な訪問はできなかったが来年度の目標として継続していく。市社協の担当コミュニティソーシャルワーカー(生活支援コーディネーター)とも共有している。
	②地域に関する情報の整理(団体や組織の情報、人的ネットワークを整理し全職員で共有する)	今年度は具体的な取り組みに進めなかったが、シートのたたき台を作成した。来年度は、それを基に情報を集約、整理していく予定である。
実績目標	新型コロナウイルス感染症の影響等	実績結果 コロナ禍はまだまだ続いているが、要支援等の対象者は増加傾向にある。現在は対応できているが、徐々に地域の活動の再開が予測される。現在は新型コロナウイルス感染症の流行後に当センターに異動してきたりや入職した職員が多く、そういった職員は地域づくりの経験がまだ不十分である。それぞれの職員の状況に合わせ、「地域づくり」と「個別支援」の仕事のバランスを考えつつ、育成していくことが必要である。

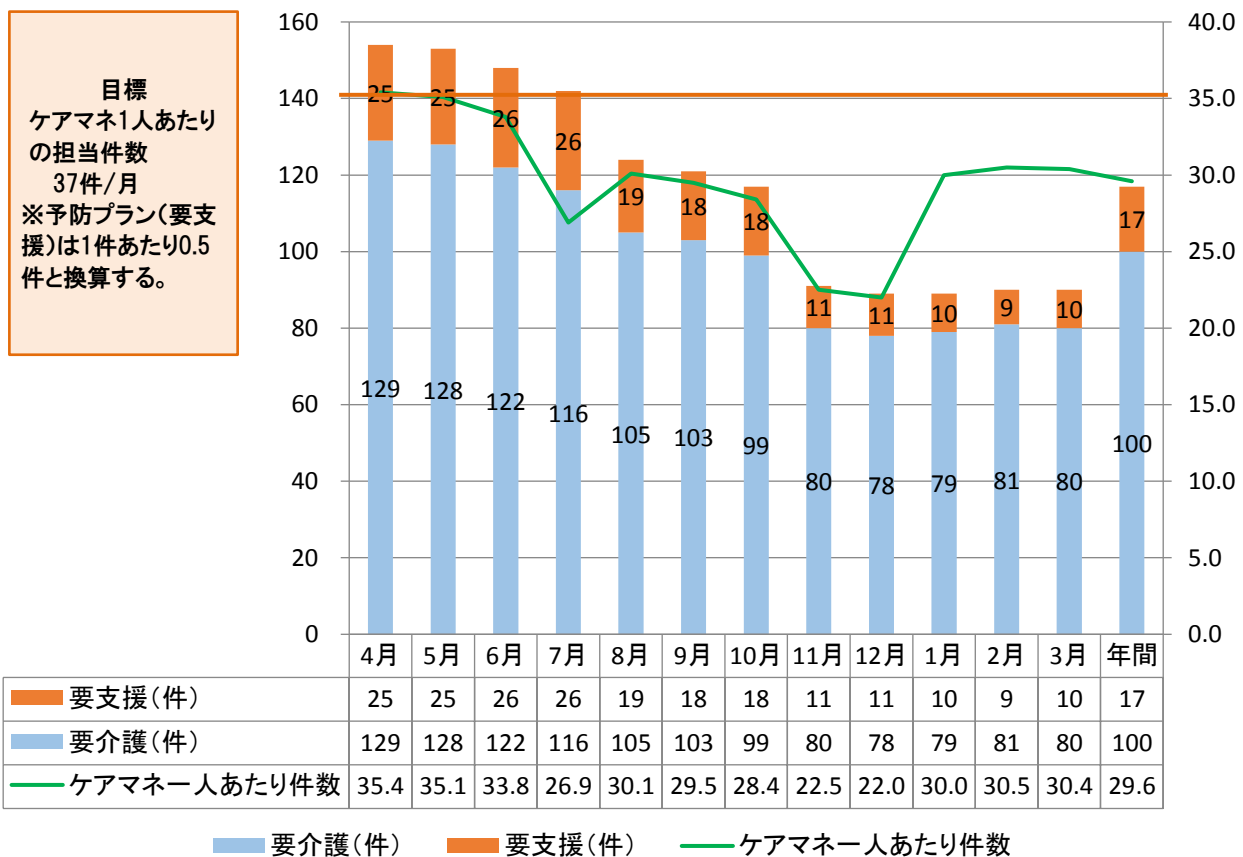
事業報告(居宅)

2021 年度

稼働率の達成状況 7月末1名、12月末2名の退職者に対し、5月0.8名(契約職員の常勤換算値)採用、1月1名の内部異動と、人材確保に時間がかかったため、担当ケース数は減少せざる負えないこととなりました。ケース数は一人当たり37件/月の目標に対し、28.6件/月でした。4月に1名採用の予定であり、担当ケース増に注力してまいります。

区分		累計
稼働状況	ケアプラン実績	
	要介護(件)	100
	要支援(件)	17
	合計(件)	109
	ケアマネー1人あたり件数	29.6
	ケアマネー人数(人)	3.7
	実績に含まれない相談対応	43
	新規居宅介護支援	25.0
	介護保険代行申請	83
	認定調査実績	15

ケアプランの実績(件数)



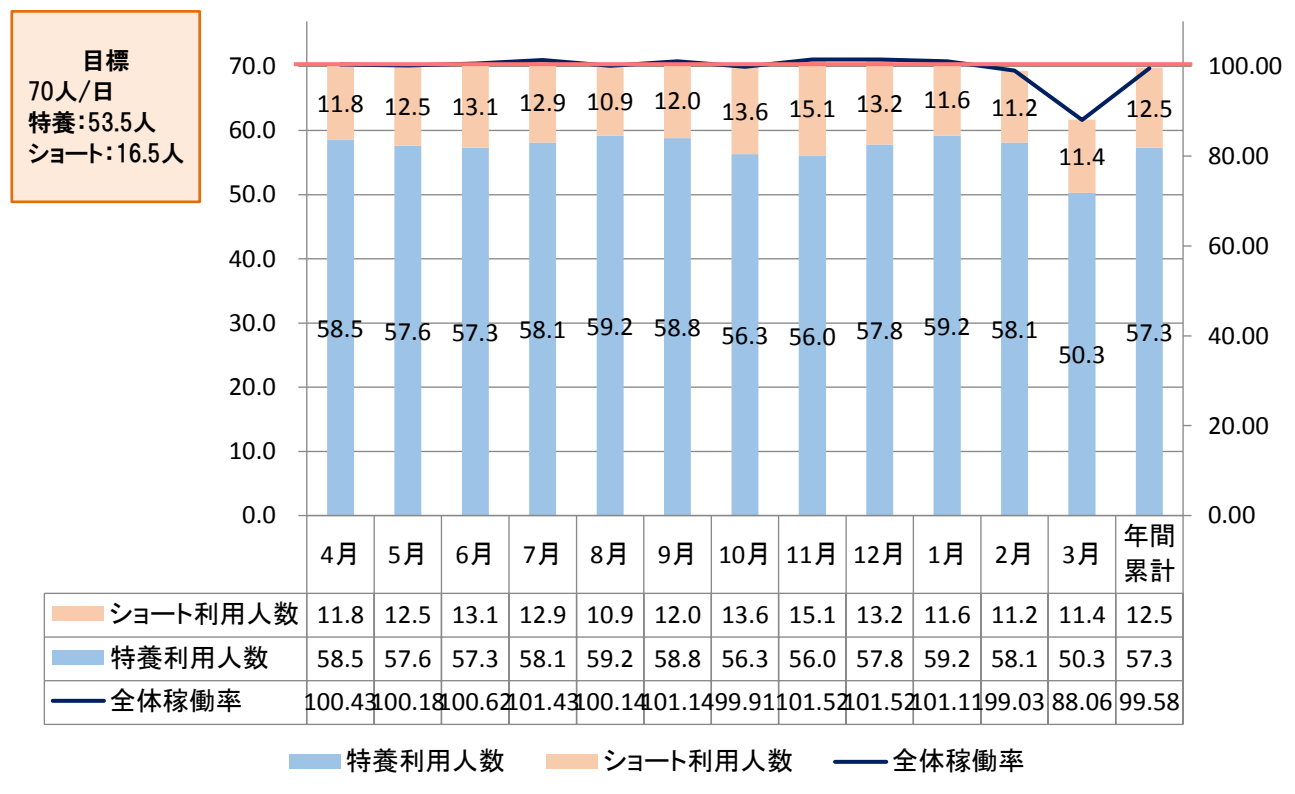
取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)収益を上げる。	<p>①新規相談は積極的に受ける。特に緊急での依頼に対しては、早急に返事をする。</p> <p>②取得できる加算は、必ず取る。(入退院加算など)</p>	<p>職員の定年退職等の予定により、11月以降、担当ケース数を減らしていました。1月以降は、欠員補充に合わせ、新規ケースを積極的に受けています。</p> <p>11月以降は、入院や入所等による減少があり、全体の実績数値は横ばいですが、4月以降は1名の欠員補充により、件数増となる見込みです。</p>
(2)人材の確保と育成	<p>①法人内の他の部門と連携して、人材確保・育成に取り組む。法人理念の実現に向けて、相談援助部門としての役割を意識し、実践と教育を行う。</p> <p>②各職員が目的を持って研修に参加し、報告の場を持ち、職員全体で内容を深め共有する。</p> <p>③定例会議や必要時に、ケース検討会議を開催し、利用者への理解を深める。</p>	<p>人材確保にほぼ1年度かかる結果となり、担当ケースの割り振りや引き継ぎに苦慮した1年でした。介護支援専門員(ケアマネージャー)の仕事の魅力をよりわかりやすくPRすることが大変重要だと思いました。</p> <p>新採用職員に対する研修のほか、市や地域包括支援センター主催の研修に参加しました。今後は職員個々の能力を評価し(自己&他己)、その課題を解決していく研修を実施する必要性を感じました。</p> <p>課題整理表を用いたケースの共有や困難ケースの検討等を定例会議で行いました。ケースの共有や検討をチームで行うことは、チームケアの向上だけでなく、人材育成・自己啓発に直結するので、今後も力を入れていきたいと思っています。</p>
実績目標	○介護支援専門員1人あたりの担当件数37件/月(令和2年度と同じ)	実績結果 28.6件/月

稼働率の達成状況 2月中旬より3月にかけて、新型コロナウイルスの感染症のクラスターが発生したため、3月の稼働率は80%台に低下しました。しかし、その他の月での短期入所(ショートステイ)の空床利用などにより、年間稼働率は、99.5%と100%近い稼働率を維持することができました。

区分		累計	
稼働状況(特養)	利用者数	目標(稼働率100%)	22,630
		実績(延人数)	20,897
		差(延人数)	-1,733
		達成率(%)	92.34
介護度	平均要介護度	4.2	
	中重度比(%)	98.23	
稼働率	1日平均利用者数	57.3	
	稼働日数(日)	365	
	定員(人)	54	
	稼働率(%)	106.02	
入退所	入所(人)	15	
	退所(人)	25	
空床情報	特養枠空床数(延人数)	1,733	
	入院者数(人)	25	
	入院延べ日数(延人数)	486	
	待機空床(延人数)	1,247	

区分		累計	
稼働状況(ショート)	利用者数	目標(稼働率100%)	2,920
		実績(延人数)	4,546
		差(延人数)	1,626
		達成率(%)	155.68
介護度	平均要介護度	3.6	
	中重度比(%)	99.03	
稼働率	1日平均利用者数	12.5	
	稼働日数(日)	365	
	定員(人)	16	
	稼働率(%)	77.84	
	実利用人数(人)	15	
全体稼働	空床情報	ショート枠空床数	-1,626
		特養枠空床数	1,733
		特養+ショート空床数	107
		全体稼働率(%)	99.58

平均利用人数と全体稼働率の推移



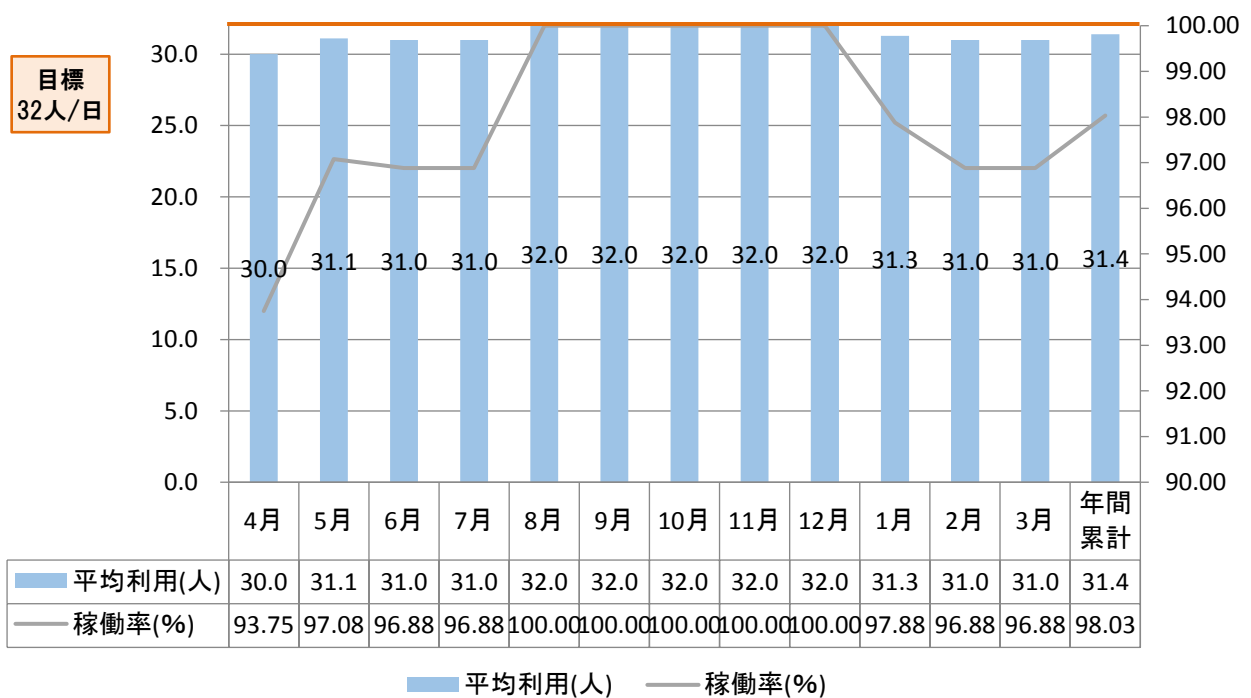
取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)職員1人1人のクオリティ、キャリアを高める。	<p>①各職員がキャリアマップⅡ「専門性」で自身の点検を重ね、知識や技術のレベルアップに取り組む(定期・随時面接等で上司と課題、取り組みを話し合う)。</p> <p>②各職員が関心のあるテーマや職層に応じた外部研修(オンライン研修も経験する)に参加する。参加した職員は職場で情報共有の機会を設ける。</p> <p>③職員個々の日頃の疑問や希望に応じて、小規模勉強会を随時、必要に合わせて開催する。(看取りや感染症、認知症など関心の高いテーマは年間計画で開催する。)</p>	<p>感染症や体制面の問題により、面談の機会が不足した。キャリアマップを活かした専門性アップへの取り組みを定着させていく。</p> <p>感染症蔓延により、外部研修参加が難しかった。後期になりオンラインでの研修環境や参加の形式が整ってきた。</p> <p>書面形式が中心となり、十分な成果を得るには難しかった。一方、ネット配信研修では時間や内容面で職員からは好評であった。</p>
(2)目標や問題に連携して対応できるチームを作る。	<p>①各職員がキャリアマップⅠ「組織性」で自身の点検を重ね、チームの一員として、役割や責任を果たす。(定期・随時面接等で上司と課題、取り組みを話し合う。)</p> <p>②「報・連・相」「配慮し合う双方通行の対話」などコミュニケーションや接遇力を高め、的確な意思の疎通や情報の共有に取り組む。</p> <p>③職種や職層、各担当など業務の役割と責任を各々の職員が明確に認識する。担当業務への責任を持った主体的な取り組みと職員間の連携強化を図る。</p>	<p>感染症や体制面の問題により、面談の機会が不足した。キャリアマップを活かした組織性アップへの取り組みを定着させていく。</p> <p>ホーム会議等を中心に対話や報連相のあり方・進め方を重ねて検討してきた。情報共有の改善に引き続き、取り組んでいく。</p> <p>役割・責任の分担と連携の取り方が整理されてきた。役割に応じた主体的な行動も進歩が見られる。特定職員への負担集中も改善傾向である。</p>
(3)暮らしやすく、働きやすいコスモスホーム作り。	<p>①年間行事及び日常的に楽しめるレク企画を実施する。特に「食」に関する企画も充実させる。フロアの装飾、整備など住み心地の良い環境作りに取り組む。</p> <p>②現状の業務内容や職員体制について、見直しを行う。業務やコスト面の効率化とシフトなど適正な勤務体制を検討し、安定的な運営体制を構築する。</p> <p>③既存の介護・生活用品の点検・整備体制を作る。また新しい生活用品や介護ロボットの情報を収集し、ご利用者と職員が安心して暮らし、働ける環境を整える。</p>	<p>ケーキの日は美味しさと選ぶ楽しさがあり、好評。五輪や季節毎の装飾、写真掲示も楽しい雰囲気を生んでいた。日常レクを増やしていきたい。</p> <p>シフト勤務体制の改善を検討してきたが、案と試行までで年度が終了。新年度から変更を開始し、業務体制の適正化、収支改善を進める。</p> <p>コロナ禍で支出を抑えたため、ティルト型車椅子は購入したが、老朽化テーブルの買換え等は新年度以降、進める。</p>
実績目標	<p>○(全体) 平均利用人員数 70人 平均稼働率 100%</p> <p>○(特養) 平均入所人員数 61.5人</p> <p>○(ショート) 平均利用人員数 8.5人 平均稼働率 106.2%</p>	<p>実績結果</p> <p>平均稼働率が99.5%で目標は概ね達成。コロナクラスターにより、3月の稼働率が大幅低下となった。</p>

稼働率の達成状況 8月より満室稼働となりましたが、ご入居者1名のコスモスホームへの入所により、12月より二人部屋に一人で入居中の方がいるため、年間を通じた稼働率は31.4人となりました。実質満室の状態が続いています。

区分		累計
延利用者数	目標(稼働率100%)	11,680
	実績(延人数)	11,450
	差(延人数)	-230
	達成率(%)	98.03
介護度	要支援1・2(人)	0
	要介護1以上(人)	0
稼働状況	1日平均利用者数	31.4
	稼働日数(日)	365
	定員(人)	32
	稼働率(%)	98.03

区分		累計	
入退所	入所(人)	5	
	退所(人)	4	
稼働状況	空室情報	空室数(延人数)	230
		入院者数(人)	
	入院延べ日数(延人数)		
	待機空室数(延人数)	230	

平均利用人数と全体稼働率の推移



取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)入居者の発するサインを見逃さず、職員それぞれが問題を解決する力をつける	①日々の記録や連絡ノートを利用し入居者の変化や心の動きを把握、職員間で共有する。疑問は残さず話し合う。	日々伝えたつもりでも、ニュアンスの違いや聞き漏らしなどがあることも分かったため、さまざまな角度から重ねて伝えることも必要と感じた
	②観察する力や伝える力を養うため担当で委員会の講義などを行う。必要な研修や参加したい勉強会などがあれば機会を設ける。	参加したい研修や勉強会の機会は作れなかったが、今後も必要に応じ継続していきたい

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)入居者の発するサインを見逃さず、職員それぞれが問題を解決する力をつける	③良いところはお互い認めあう。	伝えるという事は難しいとも感じたが、自然に言える環境を整えていきたい
(2)家族や関係機関との連携を密にする	①ハウスだよりをご家族や関係機関に送付することで、ハウスでの様子を伝える(2ヶ月に1回発行)。	隔月にハウスだよりを発行し入居者の様子をご家族や関係機関に知らせることができた
	②コロナ禍での面会の機会の減少を補うために、ケアマネやご家族に入居者の変化や現在の状態を必要に応じ知らせ共有する。	ハウスだより以外に必要に応じ家族や関係機関と連絡を取り情報の共有に努めた
(3)入居者それぞれが主役になれる機会を作る	①入居者が話しやすい雰囲気を作り、考えや望みを幅広く知る(聴く)努力を惜しまない。	コロナウイルスの感染状況に寄り会話も少ししか出来ないなどの規制があったが、感染が収まってきたら、活動を増やして行きたい
	②レクリエーションの幅を増やし、どの場面で主役になれるかを計画・実行する。	数名の方のみ実行できたが、今後も入居者の希望があれば継続していきたい
実績目標	○入居者32名満室を目指す	実績結果
		年間平均31.4名(2人室での1人入居があるため、居室は全室稼働中)

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)ご利用者の状態に合わせた安全・安心で喜ばれる食事の提供	①施設ケアプランをもとに栄養ケアマネジメントを実施し、栄養状態・健康状態・食環境が良好に維持されるように支援する。	嚥下低下により形態食の方が半数以上を占める中、低栄養の利用者は少ない。引き続き、早期に取り組み栄養改善を実施していく。
	②他職種との情報の共有・連絡・厨房内への伝達を円滑に行い、利用者の状態に合わせた適切な食事の提供を行う。行う。	「特別食」を導入し、個別対応やターミナルケア食に取り組むことができた。
	③味覚・視覚・サービス・栄養面などさまざまな視点から、ご利用者に喜ばれる食事を提供する。	新たな行事食・イベント食の実施ができなかったため、次年度実施していきたい。
(2)人材育成及び作業効率の向上を行い、ご利用者へ還元できる仕組みを作る	①職員の育成体制を確立し、個々のスキルアップを図る。	職員の育成に課題があるので、来年度に向けて研修計画をたてて取り組みたい。
	②職員による味のバラつきをなくし、且つ、サービスの向上に努める。	味の均一化に向けてレシピを作成し、改善できた。今後も取り組んでいきたい。
	③ミスをなくすための対策を検討し、安心、安全、安定した食事提供を維持する。	人員不足の中、感染症対応の食事提供を通じて、常勤職員の業務改善・効率化ができた。次年度はサービス面の向上に努めたい。
(3)収益アップへ向けて取り組む	①新しい取引先と価格の比較を行い、質の良い食材を安価で仕入れる。	仕入れ先の見直しを実施できた。価格高騰が続いているので、今後もその都度検討していく。
	②無駄を省く。食品ロス軽減へ向けて取り組む。	ハーフ食提供が増えたことで栄養補助食品にかかるコスト高となったが、食品ロスは軽減した。
	③加算の取得を継続する。(経口維持加算(Ⅰ)(Ⅱ)・療養食加算)	今年度は経口維持加算の取得を継続できていないため、次年度は取り組んでいきたい。
実績目標 新型コロナウイルス感染症対策の影響等		実績結果 2～3月のクラスター発生に対しては、使い捨て容器への切替等、シフト変更を行い対応した。

取り組み項目	行動内容(行動目標)	年度の振り返り
(1)事務体制の見直しと人材確保 ・事務室業務の見直し ・規程類の整備 ・人員確保に向けた取り組み	①事務室職員の体制(人員補充)および業務内容見直し	事務室職員体制の見直しは次年度も継続して行う
	②有給休暇取得および残業時間の管理、定年延長の見直しを実施する	定年延長について2022年4月以降の運営会議で提案して、意見集約したうえで検討を継続する
	・採用に向けた取り組み(地方就職者の支援を検討) ・就業体系および給与体系の見直しを検討	短時間の正職員について経営会議メンバーを中心に検討を行い、次年度も継続して行う
(2)設備の計画的な改修・更新と災害・防犯対策、感染症対策の強化 ・老朽化した施設および設備の更新 ・災害対策強化 ・防犯対策強化 ・感染症対策強化	①設備等の計画的な改修・更新 ・自動火災報知設備の改修工事(コスモセンター) ・各拠点の設備等更新内容を検討	今年度も新型コロナの影響もあり、大規模な改修は出来なかったが、次年度へ向けて検討を継続中
	①災害及び防犯対策の強化 ・災害マニュアルの整備と備蓄品の補充 ・防犯マニュアルの整備と防犯訓練の実施	災害時に対応する避難訓練を3月に実施 マニュアルおよび備蓄品については次年度へ継続して行う
	③感染症対策強化 ・感染症対策マニュアルの整備と備蓄品の補充 ・感染症対策に向けた環境整備の実施	クラスタ発生により必要物品が想定以上に消費したことは今後の備えの参考になった
(3)管理会計体制の再構築 ・会計処理業務の見直し ・収支状況の速やかな情報提供	①会計処理手順の効率化を目指して外部委託業者(辻・本郷)と検討調整	次年度以降も検討を継続する
	②セクション毎の収支状況をより正確に情報提供する	次年度以降も提供方法を検討しながら継続する
実績目標	新型コロナウイルス感染症対策の取り組み	実績結果 PCR検査は実施に消極的な部門に対して、呼びかけが十分ではなかった

令和3年度 社会福祉法人上溝緑寿会 事業報告書

発行日 : 令和4(2022)年3月31日
発行 : 社会福祉法人上溝緑寿会
代表者 : 理事長 佐藤 和夫
法人所在地 : 〒252-0243 相模原市中央区上溝 5423-5
法人連絡先 : Tel 042-768-1801 fax 042-768-1665